

JHF発23-100号

令和5年6月12日

神奈川県ハング・パラグライディング連盟

理事長 宮田 富由 殿

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

会長 安田 英二郎

教員・スクール事業委員会

委員長 北野 正浩



2023年4月5日付神奈川県ハング・パラグライディング連盟からの
質問状に対する回答

拝啓

梅雨の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴県連より2023年4月5日発行の質問状につきまして、下記回答申し上げます。

どうぞよろしく願いいたします。

敬具

記

1について

2023年3月に行われた教員検定員検定会において全員の検定フライトが終了した後、一部の方にリフライトで実技を実施してもらいました。これは、教員・スクール事業委員会の研究の為にフライトしていただいたものです。あくまでも技術の検定基準が難しすぎるのか、それとも単なるフライトミスなのかを確認するためのものでリフライトについては採点していませんし、フライト実技試験の内容として利用もしていません。

ただし、一人だけ明らかに高度不足で演技の継続が困難な状況であったと検定員が判断したために、当該科目だけ検定として採用するリフライトを実施した方がいました。

「これ以外にも検定でリフライトがありますか？」というご質問については、検定がどこまでの検定を指すか不明なので明確な回答をすることができません

2について

教員検定員検定会における採点基準は非常に明確で減点表が存在します。その内容に対しては、教員検定員検定会当日に2時間お話ししております。

減点内容にない減点は存在しません。気象条件によりパイロットではカバーしきれない不利な状況になった場合には減点を戻すということがなされています。

3について

検定の最初に教員・スクール事業委員会担当の山口理事が、受験生として演技フライトを実施しました。これは模範演技を示すと同時にコンディションを確認する必要から行いました。同じような演技を実施していただければ合格基準でした。検定の中間と後半にも、教員・スクール事業委員会の委員が風の状況が変化していないかどうかを確認するためにも、受験生として検定フライトを実施しています。

検定当日の気象状況によっては難易度が変わりますが基本的に採点基準は変わりませんが、判定において気象条件的な不利があれば種目ごとに加点されることはあります。今回の教員検定員検定会については、検定員である受験生がフライトして一定の許容範囲内の気象条件であったことを確認しています。

4について

検定で撮影したビデオについては、受験者のプライバシーの問題もあるので公開することはできません。合格水準の模範演技としてのフライトビデオを一般的に公開することについては検討します。

以上